

gozoCiné 上映作品 (制作順)

まいまいず井戸——take I 2006.7 8分

螺旋形の宇宙と地下への歩行——gozoCiné の原点を指し示す第一作。

Program A (7/30), L (8/10), Q (8/15)

まいまいず井戸——take II 2006.7 7分

横田基地から武蔵野の古井戸へ、詩人は自らの原風景へ下りていく。

Program A (7/30), D (8/2), S (8/17)

Na entrada da casa dos fogos (花火の家の入口で) 2006.8 10分

塔は宇宙の涯を遠望する——ブラジルで出会った「蟻の家」の衝撃。

Program A (7/30), N (8/12), T (8/18)

千々に碎て——松島篇 2006.8 10分

芭蕉の句に見出した「碎」の一語が、〈9.11〉後の世界を透視する。

Program D (8/2), J (8/8), K (8/9)

プール平 2006.10 8分

水のない水底をさまよう詩人の身体を、収容所の世紀の記憶が襲う。

Program B (7/31), H (8/6), S (8/17)

エッフェル塔 (黄昏) 2006.11 5分

都市と精霊の交感が官能的な「塔」の姿となって現れる一瞬の奇蹟。

Program A (7/30), T (8/18), U (8/19)

クロードの庭 2006.11 11分

パリからオルレアンへ。光の庭がヨーロッパの古層へと通じていく。

Program F (8/4), Q (8/15), T (8/18)

熊野、椰 (なぎ) の葉、…… 2006.12 15分

かつて中上健次を訪れた熊野で、刹那的に出現する鎮魂の「劇場」。

Program D (8/2), H (8/6), J (8/8)

Goya——予告篇、吉田喜重氏に 2007.2 5分

敬愛する映画作家へのオマージュ、あるいはフィルム□布地の氾濫。

Program E (8/3), H (8/6), T (8/18)

柳田さんの宝贝、カリフォルニア 2007.2 10分

アメリカの砂漠の光景と二重写しになる「海上の道」のヴィジョン。

Program D (8/2), G (8/5), M (8/11)

光の棘（とげ）、Frank Lloyd Wright 2007.2 13分

ライトの建築に幻視される海底の世界、そして夢の映画の輝き——。

Program D (8/2), G (8/5), M (8/11)

Strasbourg、いけぶくろ 2007.4-5 12分

行為と視線を入れ子状に多重化するライブ・パフォーマンスの記録。

Program E (8/3), P (8/14)

阿弥陀ヶ池、折口さん—— 2007.6 12分

折口信夫ゆかりの場所で水面を写すカメラの前に驚きの光景が——。

Program B (7/31), F (8/4), S (8/17)

鏡花フィルム I——プロローグ 2007.8 7分

デリダから鏡花へ。絶対的危険という形でしか未来は予告されない。

Program C (8/1), I (8/7)

鏡花フィルム II——金沢篇 2007.8 10分

知られざる処女作「蛇くひ」を通して、鏡花がデュラスと共鳴する。

Program C (8/1), I (8/7)

鏡花フィルム III——逗子篇 2007.8 9分

19歳の夏の記憶に導かれ、鏡花の幻想の幕が開いた場所を再訪する。

Program C (8/1), I (8/7)

鏡花フィルム IV——三尺角、水の駅 2007.9 13分

鏡花の景色の俳から太田省吾へ渡される橋、そして目の痛み＝悼み。

Program C (8/1), I (8/7)

朔太郎フィルム日記 2007.10 8分

風にはためく朔太郎の肖像を手に、利根川の水流を静かに見つめる。

Program C (8/1), O (8/13)

奄美フィルム——ミホさん追悼 2007.11 14分

色と匂いに誘われ、四半世紀の道行を経て反復される「別れの挨拶」。

Program J (8/8), N (8/12), Q (8/15)

Silver Dog——大手拓次と若林奮に 2008.6 10分

大手拓次の詩と彫刻家若林奮の彫跡が気づかせた「犬」のヴィジョン。

Program F (8/4), M (8/11), T (8/18)

月山、一番下を吹く風 2008.7 18分

森敦氏の思い出と月山参籠所に籠って読んだ「奥の細道」の風、……

Program B (7/31), K (8/9), T (8/18)

奄美フィルム II —— 静かなシマのとき 2008.7 26分

島尾ミホ追悼の旅の8カ月後。再びミホが生きた島の空気に分け入る。

Program J (8/8), Q (8/15)

芥川龍之介フィルム I —— *Kappa* 2008.8 19分

佃島の路地と水辺。腕時計のガラスに緑色の「河童」の出現を待つ。

Program C (8/1), M (8/11)

芥川龍之介フィルム II —— *Kappa, Appendix* 2008.8 10分

大川の河岸（かし）に、芥川が見ていた「みすぼらしい自然」を探す。

Program C (8/1), M (8/11)

物の音、恐山 2008.9 28分

白い浄土の霊地恐山。岩を聞き、風の言葉に耳を澄ます……。

Program B (7/31), I (8/7), Q (8/15)

Jakaranda —— リオ、サンパウロ 2008.10 7分

リオの夜の街角、—— 倅せの一瞬と妖花ジャカラダに心を尽す。

Program L (8/10), N (8/12), T (8/18)

忍路（オショロ） —— 北石狩衛生センター 2008.11 19分

忍路環状列石を巡り、長編詩「石狩シーツ」、詩篇の入口に再び佇む。

Program F (8/4), H (8/6), S (8/17)

木浦（モッポ）、*nakedwriting* 2008.11 19分

良寛とジョン・ケージの筆跡が、木浦の夕陽を背に寶貝と共に踊り出す。

Program F (8/4), J (8/8), U (8/19)

Carnac、 “間に（アントル） ” 2009.3 8分

ブルターニュの巨石群は海辺にあった、……詩人はカメラに問いかける。

Program B (7/31), H (8/6), T (8/18)

Yeats Vision、アイルランド 2009.4 13分

ケルト民謡が風となって吹きわたり、……イエイツの心の芯に近づく。

Program B (7/31), I (8/7), S (8/17)

紅テントと軽いテント —— 唐十郎さん今福龍太さんに 2009.5 17分

紅テントとの新たな出会いとヴィジョン。「河原の思想」を呼び起す。

Program G (8/5), L (8/10)

萬（よろず）、巨人の足音 —— *Take I* 2009.7 16分

画家・萬鉄五郎の代表作《裸体美人》の振れた体と足裏に魅せられて……

Program E (8/3), P (8/14)

萬（よろず）、巨人の足音 —— *Take II* 2009.8 10分

萬の深い眼に、太古の舞いの、……早池峰神楽の空気が重ねられる。

Program E (8/3), P (8/14)

萬（よろず）、巨人の足音 —— *Take III* 2009.7-9 16分

《巨人の足音》のヴィジョンが宮澤賢治の銀河ステーションへ繋がる。

Program E (8/3), P (8/14)

道路（みち）の遠近を忘れたり——津田新吾さんを悼みつつ 2009.7 18分

若き編集者の死を深く悼み、訃報の翌日詩人は下北沢に向かった……

Program N (8/12), O (8/13), S (8/17)

最上川、象潟——奥の細道 2009.8 32分

肘折温泉から、最上川、そして象潟へと、芭蕉の眼とともに、……

Program K (8/9), P (8/14)

山寺フィルム——奥の細道 2009.9 19分

芭蕉が捉えた「閑さ」とは何か。「岩にしみ入る蟬の声」の音の根へ……

Program K (8/9), R (8/16)

利根（タンネ）——朔太郎の 2009.10 2分

激しく流れる利根川に、朔太郎の「利根川の河原」の淋しい心を重ねる。

Program O (8/13), S (8/17)

尾花澤フィルム——奥の細道 2009.10 6分

読み深めてきた芭蕉句の再発見。尾花澤の清風歴史資料館での驚嘆……

Program K (8/9), R (8/16)

芭蕉さん終焉——大阪 2009.11 6分

通天閣へ。芭蕉の没した大阪は半世紀前の詩人の出発点でもあった。

Program F (8/4), K (8/9), T (8/18)

赤城山——朔太郎の 2009.12 8分

薄紅色の雲流れる赤城山に、朔太郎の見ていた幻の恐ろしい山を見る。

Program O (8/13), S (8/17)

エミリーfilm 2010.4 9分

エミリー・ディキンソンの瞳ごしに、アメリカの歴史を手繰りよせる。

Program D (8/2), H (8/6), O (8/13)

八戸、蟻塚——章伍さんと 2010.5-8 20分

ICANOF「飢餓の木」展出品作。ブラジルの蟻塚が八戸に召喚される。

Program **G** (8/5), **R** (8/16)

拈花瞬目（ねんげしゅんもく）——雪雄子と 2010.8 33分

パウル・クレーの眼を媒介にして記録された舞踏家のパフォーマンス。

Program **L** (8/10)

The Voice of (漆) ——会津にて 2010.8 20分

繭玉の光に導かれて、漆の褐色の樹液に唇を寄せるいたわりの儀式。

Program **E** (8/3), **L** (8/10), **R** (8/16)

村への遊撃——及川廣信 2010.9 29分

詩人・黒田喜夫に捧げられたソロダンスにカメラが間近で共振する。

Program **R** (8/16)

沼澤地方（朔太郎）から新潟（金時鐘）へ 2010.11 10分

金時鐘に捧げられた一篇。朔太郎と時鐘の詩作が利根川の石に震える。

Program **F** (8/4), **O** (8/13)

心中天の秋川、…… 2011.1 16分

幼き娘たちの命への「たむけ」に、1987年に訪れた秋川の河原を再訪。

Program **M** (8/11), **N** (8/12), **U** (8/19)

Watts Towers——とうとうこうして海が亡びて行く、その歌としての貝殻の塔、…… 2011.3 10分

Fukushima 原子炉事故の報道が伝わるロスで、貝殻たちに宿る夢に聞く。

Program **A** (7/30), **O** (8/13), **T** (8/18)

Emerald Song 2011.3 12分

〈3.11〉後のグランドキャニオンに、エメラルド色のマリリアが歌う。

Program **D** (8/2), **I** (8/7), **U** (8/19)

The Eyes——for Herman Melville 2011.6 7分

鯨の眼と白く輝く頭蓋骨の衝撃。ゴッホの澄んだ眼と「白鯨」が、……

Program **A** (7/30), **E** (8/3), **U** (8/19)

アメリカ、沼澤地方、…… 2011.6 7分

アメリカの詩人の朔太郎のヴィジョンが、ウォルデンの池の上に。

Program **A** (7/30), **D** (8/2), **U** (8/19)